

定期作況報告

平成27年11月
(11月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬は平年並で、下旬は極めて高かった。月平均気温は6.1℃で平年より高かった(+2.2℃)。降水量は上旬が平年並で、中旬はやや多く、下旬は観測されず、月合計は35.0mmで平年よりやや少なかった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬はやや少なく、下旬は多く、月合計は214.6時間で平年よりやや多かった。

5月：平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬はやや高く、下旬は極めて高かった。月平均気温は12.1℃で平年より極めて高かった(+2.5℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬はやや少なく、下旬は少なく、月合計は36.0mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年より多く、中旬はやや多く、下旬は多く、月合計は240.9時間で平年より多かった。

6月：平均気温は上旬が平年より低く、中旬はやや高く、下旬は極めて低かった。月平均気温は13.7℃で平年より低かった(-1.9℃)。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬は少なく、下旬は平年並で、月合計は78.0mmで平年並であった。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬は多く、下旬は少なく、月合計は144.2時間で平年並であった。

7月：平均気温は上旬が平年より極めて低く、中旬・下旬はともに極めて高かった。月平均気温は20.0℃で平年よりやや高かった(+1.4℃)。降水量は上旬・中旬がともに平年より少なく、下旬はやや少なく、月合計は50.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬は多く、下旬はやや少なく、月合計は175.8時間で平年並であった。

8月：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬は低く、下旬は極めて低かった。月平均気温は18.6℃で平年より低かった(-1.8℃)。降水量は上旬が平年よりやや多く、中旬・下旬はともに少なく、月合計は85.0mmで平年よりやや少なかった。日照時間は上旬・中旬がともに平年並で、下旬はやや少なく、月合計は125.8時間で平年並であった。

9月：平均気温は上旬・中旬がともに平年より低く、下旬はやや高かった。月平均気温は19.9℃で平年よりやや低かった(-0.9℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬は極めて多く、下旬はやや少なく、月合計は111.5mmで平年並であった。日照時間は上旬・中旬・下旬ともに平年並で、月合計は148.1時間で平年並であった。

10月：平均気温は上旬が平年並で、中旬はやや低く、下旬は低かった。月平均気温は7.7℃で平年よりやや低かった(-1.0℃)。降水量は上旬が平年より多く、中旬・下旬はともに少なく、月合計は66.5mmで平年並であった。日照時間は上旬・中旬がともに平年よりやや多く、下旬は平年並で、月合計は202.8時間で平年よりやや多かった。

11月：平均気温は上旬が平年より低く、中旬はやや高かった。中旬までの平均気温は3.1℃で平年並であった(-0.3℃)。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬は平年並で、中旬までの合計は36.5mmで平年よりやや少なかった。日照時間は上旬・中旬ともに平年並で、中旬までの合計は79.3時間で平年並であった。

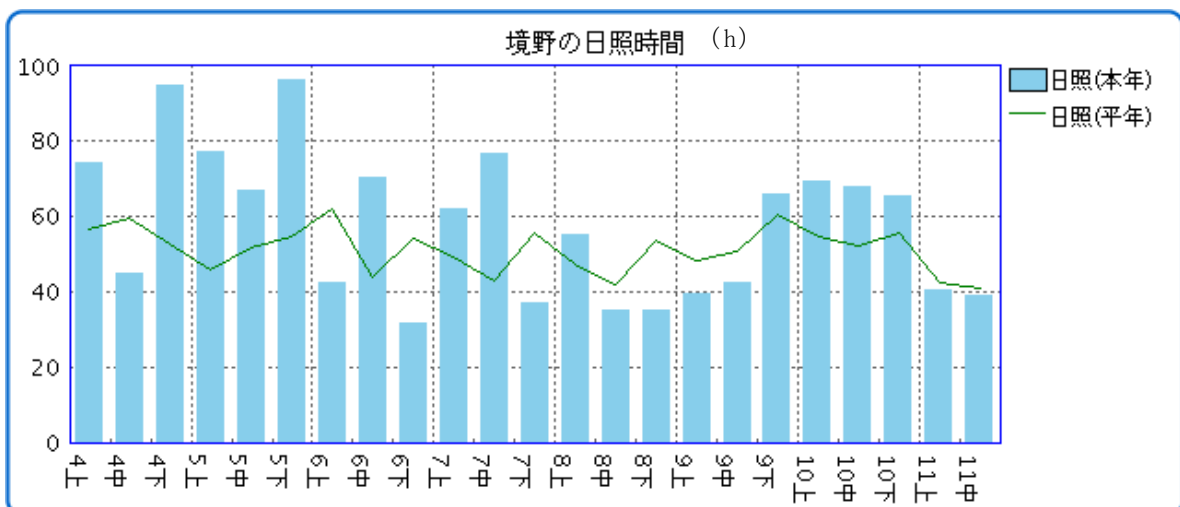
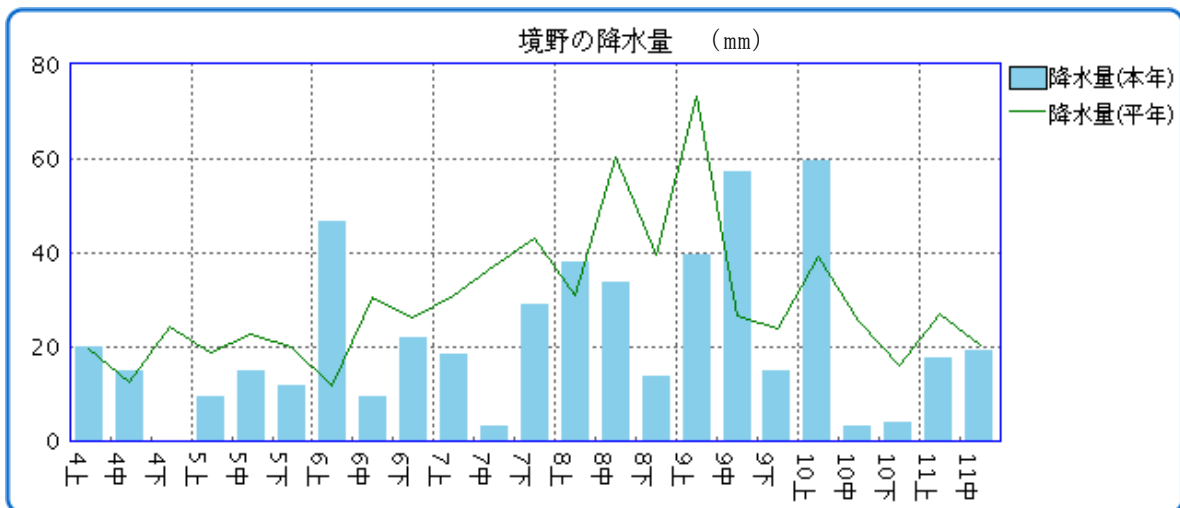
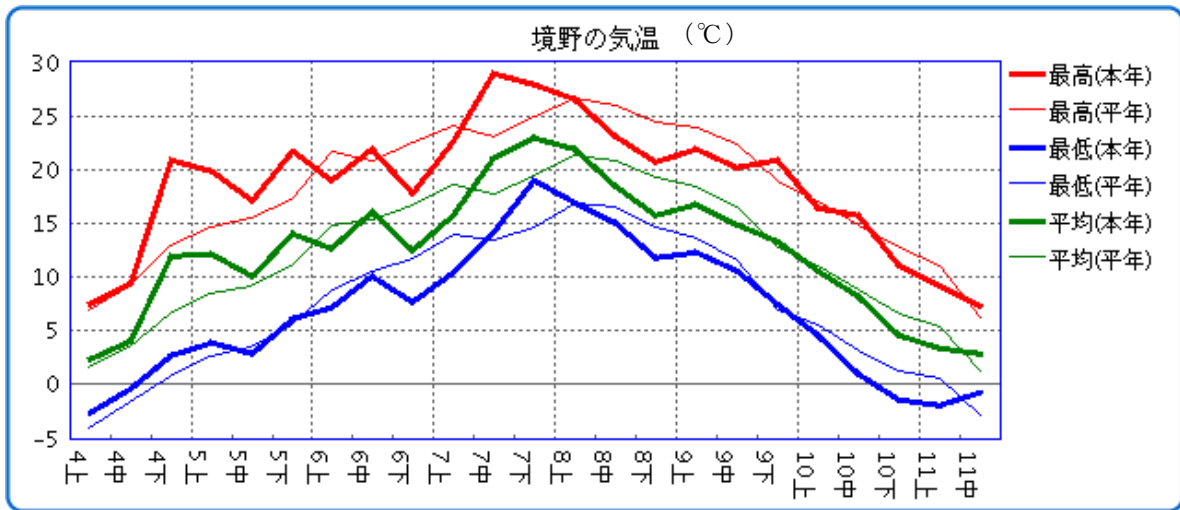
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

気温：5月は平年より極めて高く、6月は低く、7月はやや高く、8月は低く、9月はやや低かった。この期間の日平均気温の積算値は2426℃で平年並であった(平年差-29℃、平年比99%)。

降水量：5月は平年より少なく、6月は平年並で、7月は少なく、8月はやや少なく、9月は平年並であった。この期間の降水量の積算は361mmで平年よりやや少なかった(平年差-133mm、平年比73%)。

日照時間：5月は平年より多く、6～9月はいずれも平年並であった。この期間の日照時間の積算は835時間で平年並であった(平年差+71時間、平年比109%)。

2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3) 気象表

年月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
平成27年	上旬	2.4	1.6	0.8	7.4	6.9	0.5	-2.6	-4.0	1.4	20.0	19.6	0.4	74.6	56.7	17.9
4月	中旬	4.1	3.5	0.6	9.3	9.1	0.2	-0.4	-1.6	1.2	15.0	12.4	2.6	45.1	59.4	-14.3
	下旬	11.9	6.6	5.3	20.9	12.9	8.0	2.7	0.8	1.9	0.0	24.0	-24.0	94.9	52.7	42.2
	上旬	12.1	8.4	3.7	19.8	14.6	5.2	3.8	2.7	1.1	9.5	18.7	-9.2	77.4	45.9	31.5
5月	中旬	10.1	9.2	0.9	17.1	15.5	1.6	2.9	3.5	-0.6	15.0	22.7	-7.7	67.0	51.6	15.4
	下旬	14.0	11.1	2.9	21.8	17.2	4.6	6.1	5.5	0.6	11.5	20.0	-8.5	96.5	54.9	41.6
	上旬	12.6	14.9	-2.3	19.0	21.7	-2.7	7.1	8.8	-1.7	46.5	11.4	35.1	42.3	62.2	-19.9
6月	中旬	16.0	15.3	0.7	21.9	20.9	1.0	10.0	10.6	-0.6	9.5	30.2	-20.7	70.3	43.9	26.4
	下旬	12.4	16.7	-4.3	17.7	22.6	-4.9	7.6	11.8	-4.2	22.0	26.1	-4.1	31.6	54.2	-22.6
	上旬	15.8	18.6	-2.8	22.5	24.1	-1.6	10.4	13.9	-3.5	18.5	30.9	-12.4	61.9	49.5	12.4
7月	中旬	21.0	17.8	3.2	29.0	23.0	6.0	14.1	13.5	0.6	3.0	37.2	-34.2	76.9	42.9	34.0
	下旬	22.9	19.4	3.5	27.9	25.0	2.9	19.0	14.6	4.4	29.0	43.1	-14.1	37.0	55.8	-18.8
	上旬	21.9	21.3	0.6	26.5	26.7	-0.2	17.0	16.9	0.1	38.0	30.9	7.1	55.4	47.5	7.9
8月	中旬	18.4	20.8	-2.4	23.1	26.0	-2.9	15.1	16.6	-1.5	33.5	60.2	-26.7	35.1	42.1	-7.0
	下旬	15.8	19.2	-3.4	20.7	24.5	-3.8	11.8	14.6	-2.8	13.5	39.5	-26.0	35.3	53.7	-18.4
	上旬	16.7	18.5	-1.8	21.9	23.9	-2.0	12.2	13.7	-1.5	39.5	73.2	-33.7	39.6	48.1	-8.5
9月	中旬	14.8	16.6	-1.8	20.2	22.3	-2.1	10.5	11.5	-1.0	57.0	26.4	30.6	42.4	50.6	-8.2
	下旬	13.4	12.8	0.6	20.8	19.0	1.8	7.5	6.9	0.6	15.0	23.7	-8.7	66.1	60.7	5.4
	上旬	10.6	11.0	-0.4	16.4	17.1	-0.7	4.5	5.6	-1.1	59.5	39.2	20.3	69.4	54.5	14.9
10月	中旬	8.2	8.8	-0.6	15.8	14.9	0.9	1.0	3.1	-2.1	3.0	25.3	-22.3	68.0	52.4	15.6
	下旬	4.5	6.6	-2.1	11.0	12.7	-1.7	-1.5	1.3	-2.8	4.0	15.9	-11.9	65.4	55.6	9.8
	上旬	3.4	5.4	-2.0	9.2	11.1	-1.9	-1.9	0.5	-2.4	17.5	27.0	-9.5	40.4	42.6	-2.2
11月	中旬	2.8	1.3	1.5	7.3	6.3	1.0	-0.7	-2.8	2.1	19.0	20.1	-1.1	38.9	40.9	-2.0
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	
4月	6.1	3.9	2.2	12.5	9.6	2.9	-0.1	-1.6	1.5	35.0	56.0	-21.0	214.6	168.8	45.8	
5月	12.1	9.6	2.5	19.6	15.8	3.8	4.3	4.0	0.3	36.0	61.4	-25.4	240.9	152.4	88.5	
6月	13.7	15.6	-1.9	19.5	21.7	-2.2	8.2	10.4	-2.2	78.0	67.7	10.3	144.2	160.3	-16.1	
7月	20.0	18.6	1.4	26.5	24.1	2.4	14.6	14.0	0.6	50.5	111.2	-60.7	175.8	148.2	27.6	
8月	18.6	20.4	-1.8	23.3	25.7	-2.4	14.5	16.0	-1.5	85.0	130.6	-45.6	125.8	143.3	-17.5	
9月	19.9	20.8	-0.9	28.4	28.7	-0.3	12.9	13.4	-0.5	111.5	123.3	-11.8	148.1	159.4	-11.3	
10月	7.7	8.7	-1.0	14.3	14.8	-0.5	1.2	3.3	-2.1	66.5	80.4	-13.9	202.8	162.5	40.3	
11月(中旬まで)	3.1	3.4	-0.3	8.3	8.7	-0.4	-1.3	-1.2	-0.1	36.5	47.1	-10.6	79.3	83.5	-4.2	

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる(てん蔵の定期作況気象情報)。10年平均は前10か年の平均値である。

4) 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

年次	初霜 (年.月.日)	根雪始 (年.月.日)	根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)	初霜 (年.月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	H26.10.16	H26.12.11	H27.4.16	127	H27.4.16	H27.4.30	H27.5.2	H27.10.14	164	H27.10.25
平年	10.11	12.7	4.12	128	5.7	4.28	5.10	10.12	154	11.2
比較	5	4	4	-1	-21	2	-8	2	10	-8

期間	項目	平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
	5月上旬 ～ 9月下旬	本年	2426	361
	平年	2455	494	764
	比較	-29	-133	71

注) 農耕期間の積算値は置戸町境野のアメダスにより、それ以外は北見農試観測値である。
平年値は前10か年の平均値である。

2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（平成26年9月播種） 作 況：良

事 由：播種は平年並の9月16日に行った。出芽期は平年より1日早い9月24日であった。越冬前（11月20日）の草丈と茎数は平年より少なかったが、越冬に必要な生育量は確保できていた。根雪始は平年より4日遅い12月11日、融雪期は平年より4日遅い4月16日で、根雪期間は平年より1日間短かった。調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期は14日早い4月2日で、雪腐病の発生は少なかった。

融雪期以降、平均気温が平年より高く経過したため、生育は進み、出穂期は平年より7日早い6月1日であった。6月下旬～7月上旬の平均気温は平年より極めて低かったが、その後は高温となり、成熟期は平年より2日早い7月24日であった。稈長は平年よりやや短く、穂長、穂数は平年並であった。また、倒伏は発生しなかった。登熟期間が平年より5日長く、7月上・中旬の日照時間が平年より多かったことから、子実の充実は良好であった。リットル重、千粒重ともに平年を上回り、子実重は平年比117%であった。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目		きたほなみ		
		本年	平年	比較
播種期	(平成26年月.日)	9.16	9.16	0
出芽期	(平成26年月.日)	9.24	9.25	△1
出穂期	(平成27年月.日)	6.1	6.8	△7
成熟期	(平成27年月.日)	7.24	7.26	△2
草丈(cm)	(平成26年11月20日)	15.3	19.0	△3.7
草丈(cm)	(平成27年5月20日)	45.2	39.7	5.5
草丈(cm)	(平成27年6月20日)	93.4	93.8	△0.4
茎数(本/m ²)	(平成26年11月20日)	1057	1342	△285
茎数(本/m ²)	(平成27年5月20日)	1515	1515	0
茎数(本/m ²)	(平成27年6月20日)	764	741	23
稈長(cm)	(成熟期)	82	87	△5
穂長(cm)	(成熟期)	8.3	8.8	△0.5
穂数(本/m ²)	(成熟期)	697	716	△19
子実重(kg/10a)		810	694	116
同上平年比(%)		117	100	17
リットル重(g)		818	794	24
千粒重(g)		44.2	37.2	7.0
品質(検査等級)		1	2	-

注) 「きたほなみ」の平年値は前7カ年中、平成22年(最凶)、25年(最豊)を除く5カ年の平均値。

2) 秋まき小麦（平成27年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種は平年より2日遅い9月18日に行った。出芽期は平年並の9月25日で、出芽は良好であった。10月下旬～11月上旬の平均気温が平年より低かったため、越冬前の草丈と茎数は平年を下回っているが、越冬に必要な生育量は確保できている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期（平成27年月.日）	9.18	9.16	2
出芽期（平成27年月.日）	9.25	9.25	0
草丈(cm)（平成27年11月20日）	13.4	19.6	△6.2
茎数(本/㎡)（平成27年11月20日）	1124	1330	△206

注) 「きたほなみ」の平年値は前7カ年中、平成22年（最凶）、27年（最豊）を除く5カ年の平均値。

3) 春まき小麦

作 況 : 良

事由：調査圃場は融雪剤散布により4月2日に融雪となったが、4月中旬は降水量がやや多く、播種期は平年より4日遅い4月22日であった。播種後の気温が極めて高く推移したことから、出芽期は平年より2～3日早かった。4月下旬から5月下旬の平均気温が平年より高く推移したため生育は進み、出穂期は平年より4～5日早かった。その後、6月下旬の気温が極めて低かったことから、開花の進みは緩慢であった。成熟期は平年並から1日遅く、登熟期間は平年より5日長かった。稈長は平年並からやや低く、穂長は平年並で、穂数は平年より多かった。倒伏は発生しなかった。穂数が多く、登熟期間が平年より長かったことから、子実重は平年比121～122%と多収であった。リットル重は平年並で、千粒重は平年並からやや下回った。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.22	4.18	4	4.22	4.18	4	
出芽期 (月.日)	5.1	5.3	△ 2	5.1	5.4	△ 3	
出穂期 (月.日)	6.19	6.23	△ 4	6.17	6.22	△ 5	
成熟期 (月.日)	8.5	8.4	1	8.7	8.7	0	
草丈 (cm)	(5月20日)	20.7	14.6	6.1	21.7	14.8	6.9
	(6月20日)	70.0	68.0	2.0	72.7	67.5	5.2
茎数 (本/m ²)	(5月20日)	733	387	346	680	380	300
	(6月20日)	882	829	53	816	816	△ 0
稈長 (cm) (7月20日)	93	94	△ 1	87	92	△ 5	
穂長 (cm) (7月20日)	7.9	8.2	△ 0.3	7.4	7.5	△ 0.1	
穂数 (本/m ²) (7月20日)	732	543	189	721	564	157	
子実重 (kg/10a)	579	478	101	577	472	105	
同上平年比 (%)	121	100	21	122	100	22	
リットル重 (g)	814	805	9	814	809	5	
千粒重 (g)	39.0	39.6	△ 0.6	40.1	42.5	△ 2.4	
品質 (検査等級)	1	1	-	1	1	-	

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや不良

事 由 : 播種期は平年より1日早い5月15日、出芽期は平年より1日早い5月30日であった。本年は、6月下旬から7月上旬にかけて気温が平年より極めて低く推移し、7月20日の草丈が平年を下回ったものの、7月下旬の気温が平年より極めて高かったため、開花期、抽糸期はともに平年より3日早くなった。その後、8月中旬から収穫期にかけては気温が全般に低く推移したため、8月20日の草丈と葉数、9月20日の稈長は、いずれも平年並となった。本年の収穫期は平年と同日の9月24日であった。収穫時の子実の熟度は黄熟初期と平年並で、総体の乾物率も平年並であった。乾物雌穂重は平年並であったが、乾物茎葉重は平年より少なく、乾物総重ならびに推定TDN収量は、それぞれ平年比93%、95%と平年よりやや少なかった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.15	5.16	△1	
出芽期 (月.日)	5.30	5.31	△1	
開花期 (月.日)	8.1	8.4	△3	
抽糸期 (月.日)	7.31	8.3	△3	
収穫期 (月.日)	9.24	9.24	0	
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期		
草丈 (cm)	(6月20日)	28.6	30.7	△2.1
	(7月20日)	150.4	174.1	△23.7
	(8月20日)	307.7	310.7	△3.0
稈長 (cm)	(9月20日)	271	277	△6
葉数 (枚)	(6月20日)	4.4	4.7	△0.3
	(7月20日)	12.5	12.3	0.2
	(8月20日)	14.9	14.7	0.2
生総重 (kg/10a)	6337	6699	△362	
乾物茎葉重 (kg/10a)	847	987	△140	
乾物雌穂重 (kg/10a)	1008	998	10	
乾物総重 (kg/10a)	1855	1985	△130	
同上平年比 (%)	93	100	△7	
推定TDN収量 (kg/10a)	1350	1423	△73	
同上平年比 (%)	95	100	△5	
総体の乾物率 (%)	29.3	29.7	△0.4	
乾雌穂重割合 (%)	54.4	50.2	4.2	
有効雌穂割合 (%)	100.0	99.7	0.3	

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

5) 大豆

作 況：不良

事 由：平年より1日早い5月22日に播種を行った。播種後の気温が高かったため、出芽期は平年より6日早い5月31日であった。6月上旬から7月上旬まで低温傾向で推移したため、7月までの生育は平年を下回り、開花始は平年より3日遅い7月21日であった。7月中旬から8月上旬までは高温に推移したため、主茎長、主茎節数とも平年並に回復し、着莢数も平年並となった。8月中旬以降は低温傾向で経過したが、成熟期は平年より1日早い9月24日であった。着莢数は平年並で、一莢内粒数は平年を上回ったが、百粒重が平年を大きく下回ったため、子実重は平年比81%であった。品質は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	ユキホマレ			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.22	5.23	△ 1	
出芽期 (月.日)	5.31	6. 6	△ 6	
開花始 (月.日)	7.21	7.18	3	
成熟期 (月.日)	9.24	9.25	△ 1	
主茎長 (cm)	(6月20日)	12.1	11.3	0.8
	(7月20日)	46.7	55.9	△ 9.2
	(8月20日)	71.7	72.0	△ 0.3
	(9月20日)	72.7	72.6	0.1
	(成熟期)	71.2	72.6	△ 1.4
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.9	1.3	△ 0.4
	(7月20日)	7.4	7.5	△ 0.1
主茎節数	(8月20日)	11.5	11.3	0.2
	(9月20日)	11.5	11.3	0.2
	(成熟期)	11.1	11.3	△ 0.2
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.0	4.7	△ 0.7
	(8月20日)	5.5	5.6	△ 0.1
	(9月20日)	5.0	5.4	△ 0.4
	(成熟期)	4.3	5.4	△ 0.9
着莢数 (個/株)	(8月20日)	74.6	76.0	△ 1.4
	(9月20日)	64.7	68.4	△ 3.7
	(成熟期)	68.1	68.4	△ 0.3
一莢内粒数	2.03	1.82	0.21	
子実重 (kg/10a)	311	384	△ 73	
同上平年比 (%)	81	100	△ 19	
百粒重 (g)	28.9	38.1	△ 9.2	
屑粒率 (%)	1.0	1.8	△ 0.8	
品質 (検査等級)	2上	2上	—	

注1) 平年値は、前7か年中21年(最凶)、平成23年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

6) 小豆

作 況：不良

事由：播種は平年より1日早い5月22日に行った。播種後の気温が高かったため、出芽期は平年より6日早い6月3日であった。6月上旬から7月上旬まで低温傾向で推移したため、7月までの生育は平年を下回り、開花始は平年より「サホロショウズ」で5日遅い7月26日、「エリモショウズ」では4日遅い7月27日であった。7月下旬から8月上旬の高温により、主茎長が急激に伸張して蔓化し、激しい倒伏を生じた。蔓化と倒伏による相互遮蔽および8月中旬以降の低温により、両品種とも着莢数は平年をかなり下回って推移した。9月以降も低温傾向で推移し、成熟期は平年より「サホロショウズ」で18日遅い9月30日、「エリモショウズ」で22日遅い10月11日であった。両品種とも一莢内粒数および百粒重は平年を上回ったが、着莢数は平年を大きく下回り、子実重は「サホロショウズ」が平年比93%、「エリモショウズ」が同89%であった。品質は「サホロショウズ」で平年をやや上回ったが、「エリモショウズ」では平年を下回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.22	5.23	△ 1	5.22	5.23	△ 1	
出芽期 (月.日)	6. 3	6. 9	△ 6	6. 3	6. 9	△ 6	
開花始 (月.日)	7.26	7.21	5	7.27	7.23	4	
成熟期 (月.日)	9.30	9.14	18	10.11	9.19	22	
主茎長 (cm)	(6月20日)	5.1	4.1	1.0	5.1	4.3	1.0
	(7月20日)	12.8	25.0	△12.2	13.5	22.5	△ 9.0
	(8月20日)	103.8	75.0	28.8	92.3	65.0	27.3
	(9月20日)	108.2	84.6	23.6	96.7	70.0	26.7
	(成熟期)	117.2	84.6	32.6	96.4	70.0	26.4
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.4	0.8	△ 0.4	0.3	0.7	△ 0.4
	(7月20日)	5.7	7.0	△ 1.3	6.1	7.1	△ 1.0
主茎節数	(8月20日)	13.9	13.2	0.7	14.4	13.7	0.7
	(9月20日)	14.8	13.8	1.0	15.5	14.2	1.3
	(成熟期)	15.1	13.8	1.3	15.4	14.2	1.2
分枝数 (本/株)	(7月20日)	0.3	3.4	△ 3.1	0.3	3.2	△ 2.9
	(8月20日)	3.7	4.8	△ 1.1	2.9	4.5	△ 1.6
	(9月20日)	3.7	4.4	△ 0.7	3.6	4.1	△ 0.5
	(成熟期)	3.4	4.4	△ 1.0	3.8	4.1	△ 0.3
着莢数 (個/株)	(8月20日)	40.0	62.2	△22.2	36.8	66.5	△29.7
	(9月20日)	48.9	61.7	△12.8	51.5	61.0	△9.5
	(成熟期)	45.2	62.4	△17.2	54.9	61.5	△6.6
一莢内粒数	6.52	5.64	0.88	7.09	6.25	0.84	
子実重 (kg/10a)	386	415	△ 29	390	439	△ 49	
同上平年比 (%)	93	100	△ 7	89	100	△ 11	
百粒重 (g)	15.9	15.1	0.8	15.0	14.2	0.9	
屑粒率 (%)	3.5	2.0	1.5	5.5	1.8	3.7	
品質 (検査等級)	3下	4上	—	4中	3下	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成20年(最豊)、平成24年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

7) 菜豆

作況：不良

事由：播種は平年より1日早い5月22日に行った。播種後の気温が高かったため、出芽期は平年より6日早い6月1日であった。6月上旬から7月上旬まで低温傾向で推移したため、7月までの生育は平年を下回り、開花始は平年より4日遅い7月12日であった。7月中旬から8月上旬までは高温傾向で推移したため、生育は回復し、着莢数は平年並となった。8月中旬以降は低温傾向となり、成熟期は平年より2日遅い9月5日であった。着莢数は平年を上回ったものの、一莢内粒数は平年を下回り、百粒重も平年を大きく下回ったため、子実重は平年比81%であった。なお、成熟期前後の降雨により色流れ粒が発生し、屑粒率は平年より高く、品質は平年よりやや劣った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	5.22	5.23	△ 1	
出芽期 (月・日)	6. 1	6. 7	△ 6	
開花始 (月・日)	7.12	7. 8	4	
成熟期 (月・日)	9. 5	9. 3	2	
草丈 (cm)	(6月20日)	12.5	9.4	3.1
	(7月20日)	34.9	46.6	△11.7
	(8月20日)	45.3	50.6	△ 5.3
	(9月20日)		51.6	
	(成熟期)	44.1	51.6	△ 7.5
本葉数(枚)	(6月20日)	0.7	0.9	△ 0.2
	(7月20日)	3.6	3.2	0.4
主茎節数	(8月20日)	5.4	5.2	0.2
	(9月20日)		5.2	
	(成熟期)	5.5	5.2	0.3
分枝数(本/株)	(7月20日)	5.7	5.1	0.6
	(8月20日)	4.9	5.5	△ 0.6
	(9月20日)		4.7	
	(成熟期)	5.3	4.7	0.6
着莢数(個/株)	(8月20日)	22.6	21.7	0.9
	(9月20日)		20.0	
	(成熟期)	22.5	20.0	2.5
一莢内粒数	2.67	3.05	△0.38	
子実重(kg/10a)	290	357	△ 67	
同上平年比 (%)	81	100	△ 19	
百粒重 (g)	64.9	74.5	△ 9.6	
屑粒率 (%)	12.4	6.6	5.8	
品質 (検査等級)	3下	3中	—	

注1) 平年値は、前7か年中、平成23年(最豊)、平成25年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

8) ばれいしょ

作 況：平年並

事 由：植え付けは平年より2日早い5月11日に行った。5月中～下旬の気温が平年より高かったため、萌芽期は平年より4～5日早かった。6月下旬は低温であったものの萌芽が平年より早かったことから、開花始は平年より1～3日早かった。枯ちよう期は「男爵薯」で平年より1日早い8月31日、「コナフブキ」では平年より12日早い9月24日であった。

「男爵薯」では、上いも重は平年比99%と平年並で、でん粉価も平年並であった。「コナフブキ」では、塊茎の肥大が順調に進んだことから8月20日の上いも重は平年を上回っていたが、枯凋期が早く生育日数が短くなったことにより上いも重は平年並となり、でん粉価も平年並であったため、でん粉重は平年比99%と平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.11	5.13	△ 2	5.11	5.13	△ 2	
萌芽期 (月.日)	5.31	6. 4	△ 4	5.31	6. 5	△ 5	
開花始 (月.日)	6.30	7. 1	△ 1	6.28	7. 1	△ 3	
枯ちよう期 (月.日)	8.31	9. 1	△ 1	9.24	10. 6	△ 12	
茎長(cm)	(6月20日)	22.9	18.0	4.9	27.3	18.7	8.6
	(7月20日)	46	50	△ 4	65	70	△ 5
	(8月20日)	46	52	△ 6	69	84	△ 15
茎数(本/株)	(6月20日)	3.7	3.8	△0.1	2.9	3.1	△0.2
	(7月20日)	3.8	3.8	0	3.1	3.6	△0.5
	(8月20日)	3.1	3.4	△0.3	3.3	3.4	△0.1
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	4360	4416	△ 56	4253	3400	853
	(9月20日)	—	—	—	4932	4725	207
でん粉価(%)	(8月20日)	14.8	15.1	△0.3	20.7	20.6	0.1
	(9月20日)	—	—	—	21.0	21.7	△0.7
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	985	980	5	
上いも数(個/株)	10.6	10.8	△0.2	10.7	10.6	0.1	
上いも平均重(g)	95	95	0	103	105	△ 2	
上いも重(kg/10a)	4496	4549	△ 53	4891	4907	△ 16	
同上平年比(%)	99	100	△ 1	100	100	0	
でん粉価(%)	14.8	14.7	0.1	21.8	22.0	△0.2	
でん粉重(kg/10a)	—	—	—	1017	1029	△12	
同上平年比(%)	—	—	—	99	100	△ 1	

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

9) てんさい 作 況：平年並

事 由：播種は平年より2日早い3月19日に行った。育苗期間中は気温が平年より高めに推移したため、苗の生育は平年より旺盛であった。

移植は平年より1日遅い5月7日に行った。4月下旬から圃場は乾燥傾向にあったが、移植期後に降雨があったため活着は順調であった。その後、6月中旬までは気温および降水量がおしなべて平年並であったため、生育は順調に進んだ。6月下旬から7月上旬までは、平均気温が平年より極めて低くなり、生育は遅延した。7月中旬から8月上旬までは、平均気温が平年より高く経過し、生育は回復した。8月下旬は気温が平年より極めて低くなり、その後も低温状況が続いたため、生育は鈍化した。一方、根中糖分は低温の影響を受け、順調に上昇した。

収穫は平年より1日早い10月19日に行った。根重は2品種平均で平年対比89%、根中糖分は同109%、糖量は同97%であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

表 その1

調査項目	移植						直播			
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.19	3.21	△2	3.19	3.21	△2	5.7	5.4	3	
移植期 (月.日)	5.7	5.6	1	5.7	5.6	1	-	-	-	
出芽期 (月.日)	-	-	-	-	-	-	5.20	5.17	3	
収穫期 (月.日)	10.19	10.20	△1	10.19	10.20	△1	10.19	10.20	△1	
草丈(cm)	(5月20日)	5.3	4.8	0.5	6.0	4.9	1.1	-	-	-
	(6月20日)	26.9	25.9	1.0	27.7	25.8	1.9	11.0	15.6	△4.6
	(7月20日)	54.2	57.1	△2.9	51.6	53.6	△2.0	41.7	53.4	△11.7
	(8月20日)	60.5	61.8	△1.3	55.6	57.7	△2.1	68.0	61.3	6.7
	(9月20日)	60.8	62.4	△1.6	56.7	58.1	△1.4	64.8	61.6	3.2
生葉数(枚)	(5月20日)	5.6	4.6	1.0	5.3	4.2	1.1	-	-	-
	(6月20日)	14.7	11.7	3.0	13.2	10.9	2.3	6.5	7.4	△0.9
	(7月20日)	19.9	22.1	△2.2	18.8	21.2	△2.4	13.3	16.8	△3.5
	(8月20日)	29.7	26.5	3.2	29.7	26.0	3.7	22.0	21.6	0.4
	(9月20日)	30.1	29.9	0.2	29.2	29.8	△0.6	19.5	21.7	△2.2
茎葉重(g/個体)	(6月20日)	110	100	10	100	94	6	6	20	△14
	(7月20日)	549	676	△127	506	662	△156	267	483	△216
	(8月20日)	905	843	62	891	899	△8	860	780	80
	(9月20日)	741	804	△63	754	864	△110	749	715	34
根重(g/個体)	(6月20日)	23	20	3	22	20	2	0	1	△1
	(7月20日)	267	269	△2	273	286	△13	97	160	△63
	(8月20日)	743	696	47	750	779	△29	515	602	△87
	(9月20日)	919	993	△74	891	1049	△158	818	926	△108
根周(cm)	(7月20日)	22.0	21.5	0.5	23.0	23.0	0.0	15.6	19.0	△3.4
	(8月20日)	31.6	30.3	1.3	32.1	32.9	△0.8	27.8	29.8	△2.0
	(9月20日)	33.9	34.8	△0.9	35.0	36.8	△1.8	31.2	34.1	△2.9
根中糖分(%)	(9月20日)	16.62	14.39	2.23	16.52	14.76	1.76	16.46	14.29	2.17

表 その2

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (収穫期)	4439	5305	△866	4938	5538	△600	4724	4231	493
根重 (kg/10a) (収穫期)	6607	7368	△761	6536	7478	△942	6056	6742	△686
同上平年比(%)	90	100	△10	87	100	△13	90	100	△10
根中糖分 (%)	18.66	17.02	1.64	18.92	17.55	1.37	18.84	17.11	1.73
同上平年比(%)	110	100	10	108	100	8	110	100	10
糖量 (kg/10a)	1233	1249	△16	1236	1307	△71	1140	1153	△13
同上平年比(%)	99	100	△1	95	100	△5	99	100	△1

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前5か年の平均。

10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : 不良

事 由 : 萌芽期は平年より3日遅い4月26日であった。冬損程度は、雪腐大粒菌核病の発生が認められ、平年よりやや高かった。

1 番草 ; 萌芽期以降5月下旬まで、また6月中旬において、いずれも平均気温が平年より高く推移したため、出穂始は平年より3日早い6月11日、出穂期は平年より4日早い6月15日であった。一方、萌芽期以降5月下旬まで降水量が平年より少なく、干ばつ傾向で推移したことから、草丈が平年より低く、乾物収量は平年比83%と平年より少なかった。

2 番草 ; 7月上～下旬に降水量が平年より少なかったものの、7月中～下旬の気温が高く推移したため、収穫時の節間伸長程度は平年よりやや少なかったが、草丈は同程度で、乾物収量は平年比101%と平年並であった。

3 番草 ; 8月中旬から9月中旬にかけて気温が平年より低く推移したため、草丈が平年より低く、乾物収量は平年比83%と平年より少なかった。

1～3番草の合計乾物収量は、平年比86%と平年より少なかった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

表 その1

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.26	4.23	3
冬損程度		2.0	1.2	0.8
被度(%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.11	6.14	△3
出穂期	(月.日)	6.15	6.19	△4
出穂程度	1番草	8.0	7.5	0.5
節間伸長程度	2番草	2.0	2.9	△0.9
刈取日(月.日)	1番草	6.18	6.21	△3
	2番草	8.7	8.11	△4
	3番草	10.1	10.5	△4
倒伏程度	1番草	1.0	3.0	△2.0
病害罹病程度	1番草	1.0	1.7	△0.7
	2番草	3.0	3.4	△0.4
	3番草	3.5	3.6	△0.1
草丈(cm)	(5月18日)	29	32	△3
	(6月5日)	59	70	△11
	1番草	91	102	△11
	2番草再生時	38	38	0
	2番草	65	61	4
	3番草再生時	43	45	△2
生草収量(kg/10a)	3番草	41	45	△4
	1番草	2084	2736	△652
	2番草	899	882	17
	3番草	458	615	△157
	合 計	3441	4233	△792
乾物率(%)	1番草	23.6	22.3	1.3
	2番草	21.2	22.3	△1.1
	3番草	31.6	28.9	2.7

表 その2

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
乾物収量(kg/10a)	1番草	491	595	△104
	同上平年比(%)	83	100	△17
	2番草	191	190	1
	同上平年比(%)	101	100	1
	3番草	145	174	△29
	同上平年比(%)	83	100	△17
	合計	827	959	△132
	同上平年比(%)	86	100	△14

注1) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、平成24年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

11) たまねぎ

作 況：平年並

事由：播種は、早生種「改良オホーツク1号」では平年より1日遅い3月3日、晩生種「スーパー北もみじ」では平年より1日遅い3月12日に行った。育苗期間中の気温は高めに推移し、苗の生育は概ね順調であった。移植は、「改良オホーツク1号」では平年より6日早く、「スーパー北もみじ」では平年並に行った。移植後から5月下旬まで、降水量が少なかったことから生育は停滞していたが、その後、6月上旬の降雨により徐々に回復し、6月20日における生育は、「改良オホーツク1号」では草丈、生葉数および葉鞘径のいずれも概ね平年並で、「スーパー北もみじ」では草丈および葉鞘径が平年をやや下回ったものの、生葉数は概ね平年並であった。6月下旬以降、降水量は少なめに推移し、6月下旬から7月上旬の平均気温が極めて低かったため、球肥大は遅れ、7月20日における生育は、両品種とも草丈、生葉数、葉鞘径、葉身生重は概ね平年並であるものの、球生重が平年を下回った。7月下旬以降、気温は高めに推移し、試験ほ場全体に地上部の葉先枯れ症状が若干認められたものの、適度な降雨もあったことから生育は概ね回復した。両品種ともに倒伏期および枯葉期は概ね平年並で、総収量、規格内収量および平均一球重も概ね平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3. 3	3. 2	1	3.12	3.11	1	
出芽期 (月.日)	3.16	3.16	0	3.23	3.23	0	
移植期 (月.日)	5. 1	5. 7	△6	5.12	5.12	0	
球肥大期 (月.日)	7.11	7. 6	5	7.25	7.21	4	
倒伏期 (月.日)	8. 1	7.31	1	8. 8	8. 7	1	
根切日 (月.日)	8.17	8.16	1	8.25	8.27	△2	
枯葉期 (月.日)	8.23	8.21	2	8.31	8.30	1	
収穫期 (月.日)	9. 3	9. 1	2	9.8	9. 9	△1	
草丈(cm)	移植時	21.5	23.2	△1.7	20.6	22.3	△1.7
	(6月20日)	46.0	43.8	2.2	29.7	32.3	△2.6
	(7月20日)	80.1	78.5	1.6	83.1	81.9	1.2
生葉数(枚)	移植時	3.0	3.1	△0.1	3.1	3.2	△0.1
	(6月20日)	6.6	6.2	0.4	5.9	5.7	0.2
	(7月20日)	9.0	9.2	△0.2	9.8	9.9	△0.1
葉鞘径(mm)	移植時	3.8	3.7	0.1	4.0	4.0	0
	(6月20日)	10.8	11.2	△0.4	7.7	8.8	△1.1
	(7月20日)	20.5	20.8	△0.3	20.5	20.9	△0.4
葉身生重(g)	(7月20日)	123.5	129.9	△6.4	131.2	136.7	△5.5
球生重(g)	(7月20日)	85.0	120.8	△35.8	42.8	68.1	△25.3
	(8月20日)	258.1	259.2	△1.1	209.9	220.1	△10.2
総収量(kg/10a)		7228	7161	67	6495	6063	432
規格内収量(kg/10a)		5972	6312	△340	5623	5504	119
同上平年比(%)		95	100	△5	102	100	2
規格内率(%)		83	88	△5	87	91	△4
平均一球重(g)		240	247	△7	211	212	△1

注) 平年値は前8か年中、平成19年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

平成 27 年度 北見農試作況報告（9 月 20 日）におけるばれいしょのでん粉価の
訂正について

6) ばれいしょ

訂正前	でん粉価 (%) の「コナフブキ」の平年	『22.0』
訂正後	でん粉価 (%) の「コナフブキ」の平年	『21.7』
訂正前	でん粉価 (%) の「コナフブキ」の比較	『△1.0』
訂正後	でん粉価 (%) の「コナフブキ」の比較	『△0.7』

訂正後の表

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちょう期 (月・日)	8.31	9.1	△ 1		10.6	
上いも重(kg/10a) (9月20日)	4496	4549	△53	4932	4725	207
でん粉価(%) (9月20日)	14.8	15.0	△0.2	21.0	21.7	△0.7
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	985	980	5

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。